

曹洞宗海晏山宛陵寺季刊紙  
第9号／平成20年新春

# はすのは

平成20年1月1日

発行人 浦辺世紀

発行所 海晏山宛陵寺伝道部 〒859-4527 松浦市今福町仏坂免 958 宛陵寺内  
電話：0956-74-0139 FAX：0956-74-1170 e-mail：cent@fine.ocn.ne.jp  
環境：iMac2.16GHz MacOS10.4.11 Adobe InDesign CS3 EPSON LP-S5500

◎ご家族皆様でお読み下さい。



(復元ができた坂野免の旧宛陵寺跡の土塀 12月15日撮影)

## 龍水

◆宛陵寺は深い歴史を刻んできた。はつきり記録が残されているのは明徳元年(1390)：六百十八年前。松浦党十一代の延のぶるが当時の住職大圭和尚にあてた寄進状である。それ以前の記録は失われている、五十年前の移転の時に失われた物も多いだろう◆現在旧宛陵寺跡に残されている松浦家の墓も、歴代住職の墓も、すべて同会されたもので、土葬されたそのままの形ではなさそうである。一説には宛陵寺も以前の善福寺と同じ寺上の地にあつたとされる◆古文書の詳しい解析も今後行われると思うが、何はともあれ、今、現に残されている史跡・什物を大切に保存していかねばならないだろう。(世)

# 撮心\*(せっしん)のご案内

顧みると、宛陵寺の坐禅会は昭和60年6月より始めました。当初は不定期でもあり、途中数年間中断も致しましたが、平成10年1月から毎月第2・4金曜日の夜と定め、さらに平成16年4月より毎週土曜日の夜と変更して、現在に至っております。その間参禅に通われた方は、参禅名簿に記名いただいている方で40名です。最近では3~4名の方が毎週熱心に通われています。

さてこの度、毎月第1土曜日を撮心(せっしん)の日と定め、午後2時から翌朝7時まで坐禅三昧の修行日にすることと致しました。日程は別表の通りです。皆様ご都合がつかましたら毎月第1土曜日の撮心(せっしん)に、ご参加くださいますようご案内致します。

なお、長時間の修行になりますので、途中の出入りは自由と致します(たとえば、昼だけ、夜だけ、一回だけなど)。

日程を確認して、坐禅中以外の時間に入参してください。隣邦の若手僧侶も参加予定です。

他の土曜日はこれまで通り夜7時から坐禅会です。

\*撮心(せっしん)…禅語。不断にひたすら坐禅して、心を散乱させないこと。

### 《向こう1年間の予定日》

1月	5日
2月	2日
3月	1日
4月	5日
5月	3日
6月	14日(第2)
7月	5日
8月	2日
9月	6日
10月	4日
11月	8日(第2)
12月	6日

## 素石堂月例撮心日程

毎月第一土曜日 午後2時止静

14:00	止静	05:00	振鈴
40	経行	20	止静
45	抽解	06:00	経行
50	止静	05	抽解
15:20	経行	10	止静
25	抽解	40	放禅
30	止静		雲散~
16:00	放禅		
	(行茶)		
16:20	止静		
50	経行		
55	抽解		
17:00	止静		
30	経行		
35	抽解		
40	止静		
18:10	放禅		
	(薬石)		
19:00	略布薩		
20:00	止静		
30	経行		
35	抽解		
40	止静(祖録坐誦)		
21:00	放禅		
	開枕~		

- ・止静(しじょう)…坐禅の始まり、鐘三声。
- ・経行(きんひん)…歩く禅、鐘二声。
- ・抽解(ちゅうかい)…中休み、小鐘一声。
- ・放禅(ほうぜん)…終了、鐘一声。
- ・行茶(ぎょうちゃ)…喫茶。
- ・薬石(やくせき)…質素な夕食。
- ・略布薩(りやくふさつ)…懺悔式。
- ・開枕(かいちん)…就寝。
- ・振鈴(しんれい)…起床。

※出入り自由、都合良く参加  
※坐禅堂は黙道場、私語厳禁。

海晏山宛陵寺 ●H19,12,1

# 旧宛陵寺の現在のすがた

平成19年12月現在



↑復元前

←復元後

旧宛陵寺跡は、平成十四年一月に、松浦市指定文化財に登録されました。これを受けて平成十五年四月に、「旧宛陵寺保存会」が坂野地区自治会・宛陵寺護持会・今福地域振興会・松浦市史談会今福支部及び宛陵寺住職でもって組織されました。実質的には、そのそれぞれの代表者によって話し合いをしながら、現在まで運営してきております。特に坂野地区自治会の方々の、日頃からの多大な御心配と御努力に心から敬意を表します。

旧宛陵寺跡は、移転以後ほとんど手付かずで、十分な管理もできなかつたのですが、組織の活発な行政への働き掛けにより少しづつではありますが整備ができてまいりました。

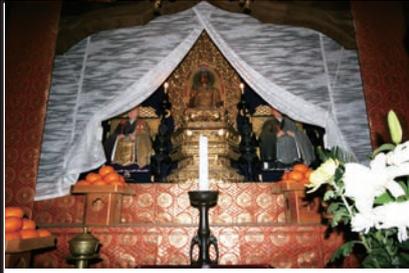
この度、保存整備に向けて市の指定文化財補助金が交付され(全経費の半額)、さらには今福町民の皆さまの御援助を賜りながら、写真のように土堀の復元が出来ました。この機会に、植林の間伐・石碑の修復・旧境内地の整地など念願していましたが、資金の工面が思うよういかないようです。どうか、宛陵寺檀信徒の皆さまのお力添えが戴ければ幸甚に存じます。

どうか皆さま、一度足を運んでみてください。今後整備を進め、深遠な時代の宛陵寺が忍ばれる貴重な史跡として、次代へ残し、引き継ぐことができれば良いと感じております。(世)

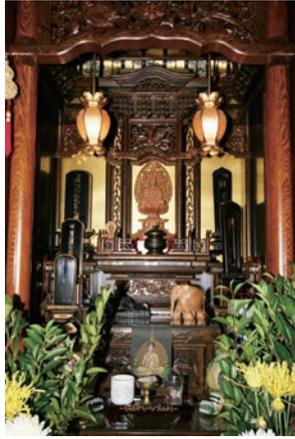


↑土堀の内側より松浦家累代墓・歴住墓を望む

# 仏事の深意・「お仏壇」



↑宛陵寺の須弥壇



←家庭のお仏壇

家庭のお仏壇は本来、ご本尊様をお奉りするために生まれました。言えば、お寺の本堂の須弥壇を、家庭に奉ったものです。後に、そこへご先祖様のお位牌を居合わせたものなのです。

ですから、お仏壇には必ず「ご本尊様」をお奉りしなければいけません。ご本尊様を奉らず、お位牌だけ祀ることを《カラまつり》と言います。亡くなったお方はもちろん、生きている私たちも、ブツダの存在と御教えに導かれ、迷いから救われるのです。

もう一度、お仏壇の中をよく見てみてください。ご本尊様（曹洞宗はお釈迦様）のお像か、掛け軸がございませうか？

「威儀即仏法」形を整えること即ち、仏心の現れなり。

宛陵寺でも、ご本山から取り寄せることが出来ますのでご相談下さい。

## 編集後記

「迷いの世界は、唯これ、ひとつの心が作るもの」わが心の他に存在世界があるわけではない。こだわりなき心によって見るとき、あらゆる物事は皆、真実そのものなのである。ひとたび、自分の都合で見るとすれば、足りても足らぬ、満ちても満ちぬと、なげくのみなり・・・。

(世)



奥の位牌堂外の非常階段より



善福寺参道より

晋山式事業の折に皆さまから頂戴した寄付金の残金を基に、四月より進めてきた、庫裡裏の土手造成工事が、この十二月をもってほぼ完了致しました。特にご心配を頂きました護持会役員の方々に心より御礼申し上げます。